

1988年8月8日開幕 終了日未定

## 平成20年度

# 実践型インターンシップを通じた 地元企業定着型 就職支援ネットワークの構築事業 (若者と中小企業とのネットワーク構築事業)

## 事業報告書

実施のてやべべーをくト出題実

西日本実業

(主に特許・商標・著作権・意匠・実用新案)

主な特許

実用新案等の登録権の付与等の手続

(登録料金等の支拂い)

実用新案登録料金の支拂い

(登録料金等の支拂い)

実用新案登録料金の支拂い

(登録料金等の支拂い)

実用新案登録料金の支拂い

(登録料金等の支拂い)

実用新案登録料金の支拂い

平成21年3月

委託者／経済産業省 四国経済産業局

委託先／社団法人香川経済同友会

## 実践型インターンシップ完了報告書 事例 No.6・7・8・9： オリエンタルモーター株式会社

**【概要】** オリエンタルモーター株式会社高松事業所に於いて「製造業における人材確保のための提案」をテーマとして取り上げ、4月10日(木)～7月17日(木)の期間にて実施した。本件は従来のやり方と趣向を変えてゼミの一環として捉え、同一テーマを4グループがそれぞれの切り口より分析し、提案を行った。

**【実施企業】** オリエンタルモーター株式会社高松事業所

### ●事業内容

精密小型モーターの製造販売

(特色) 精密小型モータービジネスに於いてはグローバルスタンダード企業  
高松地区はその主力製造事業拠点である。

高松で製造された商品の約3割は海外で使用されており、国内だけでなく世界の最先端に貢献している。

### ●今回企業より提示を受けた課題

当高松事業所より受けたテーマ「製造業における人材確保のための提案」

(理由)

一般的にメーカーは3Kの印象が強く、当事業所も熱心に採用活動を行っているが、地元を含め人材が集まらず、採用に苦慮している。

若者の目で対応を考え、提案して貰いたいとの申し出である。

(本件の受け入れ体制について)

指導教授吉田先生の希望で、吉田先生のプロゼミとして取り上げて実施した。そのため基本テーマは「製造業における人材確保のための提案」であるが、実施グループを4チームに編制、基本テーマの内でグループ毎に実施テーマを作成して、課題解決のための提案を行うこととした。

### 1. 実践型インターンシップの実施

#### (1) 実習体制

実習学生 (香川大学経済学部経営システム学科2年)

第1グループ 課題：学生をターゲットにした広報の提案

川上 普子、能智 那奈子、板野 恭子 (3名)

第2グループ 課題：会社説明会と職場見学をセットにする提案

磯貝 公子、石井 奈緒美、安井 大志 (3名)

第3グループ 課題：ワーク・ライフ・バランスの提案

中村 好美、別府 沙紀、壺内 彩香 (3名)

第4グループ 課題：フォローアップの充実

薬師寺 智美、山根 幸、平野 早紀 (3名)

指導教員 (香川大学経済学部) 吉田 誠教授  
 企業側担当者 川人 英二 (高松事業所所長)、國重 純子 (総務課リーダー)  
 担当コーディネータ 多田羅 劍、資延 隆

(2) 課題の具体的分析と目的及び課題解決への取組みについて (各グループ共通)

- ① 4月10日 学内における打合せ
  - ② 4月17日 オリエンタルモーター高松事業所に挨拶のため訪問
  - ③ 問題の洗い出しへは4月17日以降5月末にかけて次のように実施する
    - ・採用活動に関する文献報告書
    - ・会社内での採用活動聞き取り調査
    - ・他企業での採用活動聞き取り調査
    - ・調査結果の確認分析とまとめ
  - ④ 6月中に調査のまとめプレゼン発表の準備
  - ⑤ 7月中旬に発表予定
- などの取り決めでスタートした。

(3) 実施状況 (各グループ共通)

日付	実習項目	実習内容
平成20年4月17日	会社訪問	実地確認と作業内容スケジュール打合せ
～5月末	学内研究	採用活動に関する文献活動
	隨時当社訪問	同社の採用活動聞き取り調査
	他社の訪問	同社内での調査表による聞き取り調査 他社での採用活動など聞き取り調査
～6月中旬	調査結果のまとめ	調査結果の分析及び提案事項のまとめ
6月26日	中間報告	先方担当者に対し報告会を実施し修生 検討箇所などチェック
7月17日	最終報告実施	会議室に於いて報告発表会を実施



発表会風景



発表チームとコメントする吉田先生



発表会を聞く川人所長ほか会社のみなさん

## 2. 研究成果の発表

- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| ①オリエンタルモーターでの発表     | 平成 20 年 7 月 17 日 |
| ②香川大学学内における発表会で活動紹介 | 平成 20 年 12 月 1 日 |

## 3. 意見・感想

《実習生の意見・感想》

(第 1 グループ)

今この約 3 か月にわたった吉田ゼミでの取り組みについて振り返って、非常に充実した期間を過ごすことができた。ゼミの一つ一つが体験したことのないことばかりで、戸惑うことが多かった。

グループ活動は私にとってはとても大きい印象として残っている。

グループ活動で、どの案を取り上げるか、どのようにまとめるかについて、意見をぶつけ合ったが、話し合う上で自分の考えを伝えることが、こんなに難しいとは思わなかった。

ここまで深く真剣に、一緒に取り組んだことがなかったからだ。

グループでの活動は、あまり話したことのない人と意見交換をしたり、一緒に案を練り上げたりと、様々な考え方・視点を知ることができた。

企業インタビューでは実際に企業の方々に明確に質問をし、かつ企業の方の話に合わせて話を運んでいくという、とても難しく緊張する現場を肌で感じた。

最終日のプレゼンでは、グループ代表の人がとても格好良く、今までみんなで練ってきた案を最大限に発表してくれたのでとても満足できた。

オリエンタルモーターの今後の採用活動に私たちの案を取り入れてもらえた、一層やりがいを感じることがでるし、今後の活動にこの活動を生かしていくものだと感じることができた。

(板野 恭子)

今回私がこのゼミを選んだ理由は、今まで机上で勉強してきたことを、自分の考えやアイデアとしてまとめ、少しでも社会に発信したいという気持ちがあったからでした。

しかし、実際にゼミを終えてみて、正直自分が、それほど大げさに言えるようなことができたとは思えませんでした。先生と仲間の協力によって、最後にやっと人前で発表できる形になりましたが、その中で自分が何か生み出せたのか、という自信はありません。

しかし、最初に考えていたのとはまた別の達成感がありました。私はこのゼミを通して、自分の知識や経験を、社会の中で生かしていくことの面白さを実感できました。

今回はまだまだ経営の知識も少なく、課題についても勉強不足だったように思いますが、学校で学んだことは、社会に出た時こんな風に役に立っていくのだなと肌で感じ、非常に勉強になりました。今後さらに、経営を含め色々なことを学び、企業や社会に役立つアイデアを生み出していけるよう、その土台作りに励みたいと思います。

(能智 那奈子)

## (第2グループ)

このインターンシップを通して、人に何か提案をすることは難しいと思った。毎週グループ内で、レジュメを作ったり、提案内容を考えたりと集まって話し合っていたけれど、他のグループの意見や先生の意見を聞くと、見えていなかったところが多いことに、毎回気付かされた。

また、企業にインタビューをしたとき、緊張することはなかったけれど、話を聞きながらメモをしたり、回答の中で、聞きたい部分に対して質問をしたりすることが、思っていたより大変だった。

そして、オリエンタルモーターでプレゼンをしたとき、パンフレットを形にしてほしかったと言われると思っていなくて驚いたけれど、これからプレゼンをするときには、文章で表現するだけではなく、形として提示することも必要な場合があることを学べてよかったです。  
(磯貝 公子)

私は今回のインターンシップで、一番心に残っているのはS社への聞き取り調査である。

聞き取り当日までの準備も大変だったが、実際に企業の人に質問するのが、あれほど大変だとは正直思っていなかった。私はいざとなると、自分の話そうとしていることや、疑問に思ったことに自信がなくなり、気付けば消極的なインタビューになっていた。しかし先生がなんとか修正を入れてくれ、勇気を出して発言をしてみた時、自分に自信を持って発言することの重要さに気付くことができた。

実際に会社で発表する時には、みんなで考えてきた案がどのように評価されるのか、という緊張でいっぱいだった。私は発表する立場ではなかったのだが、質問されたときに、相手が納得する返事ができるのか不安でたまらなかった。

しかしあれだけ調査し、話し合って練ってきた案なのだから、大丈夫だという自信もあった。

私たちのグループの提案にはいくつかの質問がされた。その中でもパンフレットの改善の提案で、「言葉で言わただけでは分からぬ。実際にサンプルのような物があればよかったです。」とコメントされたときに尤もだと思った。しかし準備している時には全く気が付かず、言葉だけで相手に伝わるものだと思っていた。このように実際失敗してみなければ分からぬことも、沢山あるのだと改めて感じた。今回のゼミで学んだ多くのことを、これから的人生に活かしたい。  
(石井 奈緒美)

今回のプロゼミは、最初かなり不安でした。内容としては、後々自分たちが経験するであろう就職活動にもリンクするようなものでしたし、なによりゼミ連の活動をしている私にとっては、すごく意味のあるものでした。

一つの企業の実情を知っていく中で、今の中小企業の採用問題の実態を知ることができ、また人事の方々に向けてのプレゼンテーションという、学生ではあまりできない経験もできました。

今回の経験は、3年生からの演習や今後のゼミ連の活動の中で活かしていきたいと

思います。4カ月間ありがとうございました。

(安井 大志)

(第3グループ)

今回の活動を通して、人事採用の現状を理解すると同時に、より良い人材を採用するためには、何をどのように工夫すればよいかを、企業の立場に立って考えることができたように思います。

最終プレゼンまでは長い道のりで、学生や企業からのインタビューや、アンケートなどの結果から当社への提案を決めるまでは、比較的順調に進展しましたが、それからが本当に大変でした。

提案の根拠となる資料を、どのように纏めたら説得力のあるプレゼンになるのか、パワーポイントをどのように工夫したら、より強い印象を与えられるか、など考えながら内容を固めていきました。

作業は想像以上に難しく、何度も行き詰りましたが、その度に先生の意見や情報を参考にしながら、何度も話し合い、少しずつ中身の濃いものになっていきました。

最終プレゼンの直前までは、不安と緊張でいっぱいでしたが、本番では自分達ができる限りのことことができたと思います。今回の経験を忘れずに、これから自分の学習や就職活動に活かしていけたらいいなと強く感じています。 (中村 好美)

このインターンシップは、実際に企業の抱える問題を解決しようと、調べたり、まとめたりするのは大変だったが、とてもやりがいがあった。また、スーツを着て最終報告に挑んだ時は、少し緊張したが、みんなと一緒にがんばれた。

報告の後に、オリエンタルモーターの方たちの感想を聞いて、不十分な点にも気づかされたが、全体的に良い評価をいただき、最後に拍手をもらえた時には、がんばって良かったなと思った。

今後、自分たちのプレゼン内容がひとつでも採用され、良い結果が出ればいいなと思う。 (別府 沙紀)

私は、プロゼミで採用氷河期について学び、就職希望者が少ないという会社に実際に出向いて行き、学生側から見て感じた企業の改善点を提案した。

最初は友達も同じゼミに沢山いるし、楽しくなりそうという感想を持っていたが、次第に「就職」というものが私の中ですごく漠然としたものであり、何もわかってないことに気付き、インターネット等で調べなければならないことが沢山あった。しかし学生にインタビューしたり、アンケートを作ったりするときは、自分が聞きたいことを聞けて、グループの中で意見を出し合うこともできて楽しかった。

また、最後のほうは、フォローアップについて調べることになり、他の企業がしていることが、情報としてあまり得られず、期限までに提案事項について、最高のスライドが出来るかという焦りと不安があったが、アドバイスもあり、どうにか仕上げることができた。

今回、4カ月にわたってプロゼミで学んだが、とても有意義な時間を過ごせたと思

う。時々授業の直前まで宿題をしたこともあり、大変なこともあったが、現実的に「就職」について考えることもでき、なによりも1番達成感を感じられた。このインターンシップで友達も沢山できたり、3年になってゼミが始まるが、今回同様頑張りたいと思った。

(壺内 彩香)

#### (第4グループ)

私たちは今回、実践型インターンシップの一環として、オリエンタルモーター(株)の問題点を改善し、採用氷河期と呼ばれる今、どのような採用活動を行えば人材を確保できるのかを考えた。

私は初めて当社を訪れた時、会社の中側も外側も綺麗で、女性が多く働いていることに驚いた。私の持つ製造業のイメージとは全く異なっていたのだ。

私は学生班として学生を対象に就職に対する考え方や就職活動の実態について調べた。アンケート調査やインタビューを実施することで、学生の生の声を聞くことができた。先輩方の就職活動の実態に触れて、来年には就職活動を始める私自身にとって、役立つ情報や就職活動に活かせるお話を聞くことができた。また、企業のインタビューの内容も聞き、企業が求める人材や現代の若者の特徴、企業の独創的な採用活動の内容を知ることができた。

私たちの4グループの提案が、少しでも会社の採用活動に役立つことができれば良いと思う。

この活動を通して企業と学生の生の声を聞くことができ、私自身学ぶことが多くあり、これから糧にしていきたいと思う。

(薬師寺 智美)

企業と学生の両面から調査をしたことにより、オリエンタルモーター(株)の求める人材と学生の考えにはミスマッチが生じていることが分かりました。

しかし、就職活動をする学生には職業選択の自由が、企業には採用の自由が保障されているために、このミスマッチの解決が難航しているのが現状です。

また、知名度の低さは採用格差を生じさせます。だからこそ企業は知名度を着実に上げ、自社の強みをアピールすることで、学生の働く意欲を喚起することが重要となってきます。

そして、より多くの就職希望者の母集団を形成し、その中から優秀な人材を確保することに専念する必要があります。今後は清潔感のある職場や、ワーク・ライフ・バランスの要素があることなど、オリエンタルモーターらしさを強みとした、採用活動の展開が望ましいと思います。

調査や提案はとても大変でしたが、実践型インターンシップということで各々に責任感が生まれ、人事について積極的に考えることのできる、有意義な時間を過ごすことができました。

(山根 幸)

企業向けにプレゼンをすることで、たくさんの資料を集めたり、アンケート作成・集計などを行いました。どれも大変な作業でしたが、みんなと協力し合って、自

分の分担に責任を持って取り組みました。途中で先の見えない作業にくじけそうになりましたが、完成させることができて本当に良かったと思います。

しかしこれまだ力不足も感じたので、このプレゼンを通して学んだ事を、これからの大學生に生かして将来に備えたいと思います。最後になりますが、課題とやる気を教えてくださった吉田先生にとても感謝しています。本当にありがとうございました。

(平野 早紀)

#### 《企業担当者の意見・感想》

体验型、PBL、国際インターンシップの受入れを行っている中、文系の実践型インターンシップのお話を頂き少数の人員の中で、なかなか取組みができていない人材確保についてのテーマを提案させていただきました。

製造業に対する先行したイメージがあり、「目を向けてもらえない現状に社外から意見をもらえる、何より学生への貢献と会社を知ってもらえたこと、つながりが出来たこと」は大きな成果です。

振り返ってみて

開催方法：プロゼミであったため致し方ないが、学生研究にウエイトが置かれてもう少しコミュニケーションをとる機会があつても良かったのではないかと思う。計画－実施の過程があればできただかもしません。(See-Thinkまでで終了)

提案内容：学生視線の提案、学生のワーク・ライフ・バランスへの浸透度がよくわかりました。パンフレットの提案は直接反映ではありませんが、来年度採用関係の冊子更新にマッチングする内容となりそうです。学生への調査については母集団が少ないので、企業が知りたいところの具体的聞き取りまでに至ってなかったのが残念なところでした。(ここでコミュニケーションがあればクリアできた。)

学生の方も、発表会にて弊社側から色々質問をさせてもらいましたが、捉え方は今後仕事を進める上での基本になります。

自分を成長させる良い機会になっていればうれしい限りです。 (國重リーダー)

#### 《指導教授の意見・感想》

学生の、企業における提案活動を援助する経験は初めてだったので、本インターンシップの実施にはとまどうところも多かったが、まずは一段落つき安堵している。

今回のインターンシップでは、プロゼミという2年生向けの少人数ゼミナールを活用したが、講義という枠組で、どこまで学生に課外活動をさせることができるのかということが一番悩ましい点であったが、幸いにも受講生は積極的に参加してくれ、講義時間外で行われる企業インタビューや学生アンケートに熱心に取り組んでくれた。

もう少し時間があればとの思いもないわけではないが、プロゼミ2単位の授業としてはこれが限界ではなかろうかと考える。 (吉田教授)